

義務教育学校の意見まとめ

1. 義務教育学校の適正規模・許容範囲

○適正規模

18学級～27学級（1学年2学級～3学級）

- ・全学年でクラス替えができる18学級以上が望ましい
- ・学年平均3学級で効果的にクラス替えができる27学級以下が望ましい

○許容範囲※

- ・学年平均2学級でクラス替えできる18学級以上を適正範囲とし、それ未満の許容範囲は設定しない
- ・転出入等による増減に対応し、かつ国が示す小中学校の過大規模未満の30学級を上限とする

※今後の児童生徒数や、学級数の推移を注視しなければならない規模を、許容範囲とする

2. 義務教育学校の審議結果

【望ましい学級数】

	適正規模	許容範囲	
	18	27	30
	①	②	③

【上記学級数とした理由や意見】

①適正規模の下限の理由（18学級）

- ・義務教育学校は前期課程から後期課程になっても新しい環境になるわけではなく、単学級の学年は卒業まで（最大9年間）クラス替えができないことから、許容範囲は設けない
- ・人間関係や社会性育成のため、人間関係の固定化は望ましくない
- ・前期課程と連携することにより教科担任制が運用できる

②適正規模の上限の理由（27学級）

- ・各学年3学級、後期課程だけで9学級となることから、教科担任制が設けやすくなる
- ・現在の北の杜学園の学級数であり、かつ適正と捉える上限と思われる

③許容範囲の上限の理由（30学級）

- ・30という国の基準（小学校、中学校は31以上は過大規模としている）が目安となる
- ・今後義務教育学校が設置される場合も視野に入れる
- ・転入転出等による学級数の増減に対応するため